

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①: 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

本学の求める学生像や入学者選抜の基本方針等は、社会福祉学部、福祉マネジメント研究科（専門職大学院）、社会福祉学研究科それぞれに定め、大学ウェブサイトに掲載している（資料4-1-①-1）。

これらの方針にそれぞれの「求める学生像」及び「入学者受入の基本方針」が明確に示されており、全国の高専学校、予備校等々へ送付して広く周知を図ると共に、また、オープンキャンパス、高校訪問・高校内ガイダンス、進学相談会等においても高校教諭や生徒・保護者へ直接、周知を行っている。

資料4-1-①-1 大学・大学院のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

日本社会事業大学の教育は、学生が教員から社会福祉学の高度な専門知識や技術を習得しつつ、学内にとどまらない実習体験の中で周囲の多くの人々と共に研鑽を積みながら、学生自身が主体的に学問を深めることができるように育むことを基本としています。自ら幅広く現代社会における課題を探究し、さまざまな問題について解決する能力を養うことや、その努力を重ねることを惜しまない学生を求めています。

【社会福祉学部】

社会福祉学部は建学の精神と教育理念および目的に応じ、選択試験における教科・科目を設定しており、以下のような人の入学者を求めています。

- 勉学のために必要な基本的学力を十分に備え、主体的に学ぶ意欲がある。
- 建学の精神を理解して、現代社会の問題に向き合うことができる。
- 誰もが安心して暮らせる社会を構築していこうとする意欲がある。

社会福祉学部では、国内外から多様な文化や特性、障がい背景を持つ学生にも広く門戸を開けています。

【福祉マネジメント研究科（専門職大学院）】

専門職大学院が求める学生像

日本社会事業大学専門職大学院は、社会福祉分野における高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とした、わが国唯一の福祉専門職大学院です。日本の社会福祉の変革を志し、福祉専門職としての次のステップを目指す方々を求めます。

入学者受入方針（アドミッションポリシー）

教育目標の実現のために、以下のような学生を求めます。

- * 人間を深く理解し、人権を尊重し、一人ひとりの人権を何よりも大切にすること
- * 社会の変化とこれにともなうニーズの変化に高い関心を持ち、これに対応しながら、人と社会のニーズの充足・実現に積極的に取り組もうとする人
- * 社会福祉に関して一定の知見を有し、社会福祉実践を科学的に考察しようとする人
- * 社会福祉実践、社会福祉サービスの質の向上に熱意をもって取り組もうとする人
- * 社会福祉関連領域での一定の実践経験を有する人

そして、各コースにおいては、特に次のような人材を求めます。

＜アドバンスソーシャルワークコース＞

社会福祉関連領域での実践経験を有し、福祉サービス等のソーシャルワーク業務の中核的担い手を目指す人

＜福祉ビジネスマネジメントコース＞

福祉サービスその他の経営・管理的業務の実務経験を有し、経営・管理業務の創造的な担い手を目指す人

【社会福祉学研究科】

（研究に基づく社会福祉実践向上への強い目的意識）

現在社会の変化に伴って変動する社会福祉のニーズに対して常に鋭敏な関心をよせ、それらのニーズをもつ人々たちへの有効な支援のあり方を科学的に解明して、社会福祉実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感をもつ人。

（優れた実践研究を遂行する能力）

加えて、現代社会の多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、社会福祉実践向上への貢献を行うために必要な社会福

祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により実践研究を遂行できる人。

(国際的な視点)

その上で、アジアを含めて広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的に活躍したいと考える人。

(生涯にわたる自己研鑽)

さらに、生涯教育やリカレント教育によって、生涯にわたって自己研鑽に励もうと考える人

出典：大学ホームページ 社会福祉学部
福祉マネジメント 研究科
社会福祉学研究科

<http://www.jcsw.ac.jp/faculty/gakubu/index.html>
<http://www.jcsw.ac.jp/faculty/s-daigakuin/mokuhyo.html>
<http://www.jcsw.ac.jp/faculty/daigakuin/index.html>

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は学部・大学院ごとに定めており、「求める学生像」及び「入学者選抜等の基本方針」が明確に定められていると判断する。

観点4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点到係る状況】

学部、大学院とも、本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入を行うため、資料4-1-②-1のように多様な入試方法を取り入れている。

学部においては、学力重視の一般入試のみならず、面接試験により福祉志向と人物評価を重視する推薦入試を導入し、社会貢献への意欲、社会福祉従事者としての適正等を判断し、福祉従事者として相応しい人材の発見・発掘を行い、さらに全国から受験しやすくするための大学入試センター試験利用入試も取り入れている。また、手話を固有の言語とする立場から、聴覚障がい者入試（手話入試）を導入している。両大学院研究科でも多様な入試方法を取り入れながら、学力検査以外に、それぞれに面接審査、口述試験又は口頭試問を課し、福祉志向や福祉従事者又は研究者としての資質の評価を重視したものとなっている。

資料4-1-②-1 本学の入試実施方法

① 社会福祉学部

推薦 入試	一般推薦	書類審査、教養試験（英語と国語）、小論文、面接試験
	福祉系高等学校等推薦	
	特定地域高等学校等推薦	
	社会福祉分野推薦	書類審査、小論文、面接試験
一般入試	【前期日程】（3 教科3 科目） ・書類審査 ・「外国語（英語Ⅰ・Ⅱ）」、「国語（現代文）」 ・「地理歴史（日本史B、世界史B）、公民又は数学（数学Ⅰ・数学A）の4 科目中1 科目選択」 【後期日程】（2教科2科目＋面接試験） ・書類審査 ・「外国語（英語Ⅰ・Ⅱ）」、「国語（現代文）」、 ・面接試験	
大学入試センター試験利用（併用）入試	【A方式：3 教科3 科目】 ・「国語」 ・「外国語の5科目のうち1科目選択」 ・「地理歴史、公民、数学①、数学②、理科②の3 0 科目のうち1目選択」 又は理科①の4 科目のうち2 科目選択 【B方式：2 教科2 科目＋面接】 ・「国語」 ・「外国語の5科目のうち1科目選択」 ・面接試験	
私費留学生入試	書類審査、教養試験（英語を含む）、小論文（日本語）、面接試験	
中国引揚者子女特別選抜		

聴覚障がい者入試		書類審査、日本手話、外国語、国語、面接試験
編入学 試 験	一般入学試験	書類審査、小論文(教養試験含む)、面接試験
	推薦入学試験	
	社会人入学試験	

② 福祉マネジメント 研究科 (専門職大学院)

区分A	有資格者入試	書類審査、面接審査
区分B	推薦入試	書類審査、小論文、面接審査
区分C	一般推薦入試	書類審査、小論文・専門基礎知識、面接審査
区分D	学内推薦入試	書類審査、面接審査
	指定法人推薦入試	書類審査、面接審査
	地方公共団体推薦入試	書類審査、面接審査

③ 社会福祉学研究科

(博士前期課程)

一般入試	社会福祉及び社会福祉関連科目・小論文、英語、口述試験
リカレント入試	社会福祉及び社会福祉関連科目・小論文、口述試験
福祉関係職経験者入試	
学内推薦入試	小論文、口述試験

(博士後期課程)

一般入試	英語、小論文、口頭試問
------	-------------

出典：大学ホームページ 2015年度社会福祉学部入学試験要項

<http://www.jcsw.ac.jp/admissions/gakubu/yoko.html>

2015年度社会福祉学部 (3年次編入) 入学試験要項

<http://www.jcsw.ac.jp/admissions/gakubu/hennyugaku.html>

2015年度日本社会事業大学大学院学生募集要項

<http://www.jcsw.ac.jp/admissions/daigakuin/yoko.html>

2015年度福祉マネジメント 研究科(専門職大学院)学生募集要項

<http://www.jcsw.ac.jp/admissions/s-daigakuin/yoko.html>

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、面接審査等を取り入れた多様な入試方法を実施し、福祉志向や福祉従事者としての適正を判断し行っており、入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) に沿って、適切な学生の受入方法を採用していると判断する。また国際化に対応するために、私費留学生入試を導入し、コミュニケーション能力に配慮した受入を行っている。

観点4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到係る状況】

入学者選抜の実施体制は、学部は学部教授会の下に入試委員会を、両大学院は両研究科委員会の下に入試管理委員会を設置し、各入試委員長を中心として入学者選抜方式の検討、入学試験の実施方法の作成、入試問題の作成、受験者の確定、合否判定基準の策定、合否判定案の作成等を、学長の指揮の下で実施しており、責任の所在は明確である。前述の各項目

はそれぞれ学部入試委員会及び大学院入試管理委員会の提案により、学部教授会又は研究科委員会で審議・決定される。合否判定は学部入試委員会及び両大学院の入試管理委員会で合否判定基準に基づき原案を作成し、その原案に基づき学長、事務局長、学部長又は研究科長、入試委員長及び入試担当職員による執行部調整・確認を経て、学部教授会又は両研究科委員会で詳細に審議・決定する。学部一般入試の問題作成に当たっては、出題者の匿名性を重視しつつ、他に校正者・チェック者を配置して出題ミスを防止している。入学試験当日は、在校生の成績優秀者を試験問題モニター員として配置し、試験問題を解答させる体制を設けている。それ以外の区分による入学試験問題作成にあつては、複数の入試委員担当者により複数回の問題確認・校正・チェックを行うこととしている。

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、入学者選抜に関しては適切な実施体制のもとで、入試問題の作成、入学試験の実施、合否判定等が、公正に実施されていると判断できる。

観点4-1-④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点到係る状況】

本学では、全学的に入試・広報を担当する教育研究調整主幹を設置しており、全学的観点から本学が求める学生像や入学試験方法等の検討を行い、それに基づき学部入試委員会及び両大学院入試管理委員会で各教育組織に沿った、入学試験方法や試験科目等の検討を行い、学部教授会及び両研究科委員会で審議し、決定する。最近の例としては平成26年度入学試験より、学部聴覚障がい者入試(手話入試)、専門職大学院に地方公共団体推薦入試を追加し、平成27年度入学試験には専門職大学院の有資格者入試の受験資格に従来の社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格取得者に加え、介護福祉士・保健師・看護師・保育士等の国家資格取得者を追加し、受験資格を拡充した。

【分析結果とその根拠理由】

入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組は、上記のとおり行われており、その検討結果は教育組織ごとの入学者選抜の改善に役立てられていると判断する。

観点4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点到係る状況】

学部の入学者数は、「大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準(平成15年3月31日文科省告示第45号)」に従い、「大学等における開設前年度から過去4年間の入学定員に対する入学者の割合の平均が一定値未満(大学にあつては学部単位)で1.3倍未満であること。」を遵守し、過去5年間の平均入学定員充足率は1.26と安定かつ十分な入学生を迎えている。

大学院課程の過去5年間の平均入学定員充足率は、専門職大学院0.53、博士前期課程0.89、博士後期課程1.76となつ

ている。(資料4-2-①-1)

資料4-2-①-1 過去5年間の入学者選抜の状況

① 社会福祉学部						
区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平 均
入学定員	150	150	150	150	150	150
志願者数	1,291	1,187	1,190	1,206	1,009	1,176
合格者数	402	479	468	383	447	429
入学者数	191 (2)	189 (2)	190 (1)	191 (2)	193 (2)	191 (2)
充 足 率	1.27	1.26	1.26	1.27	1.28	1.26
()留学生数						
② 福祉マネジメント研究科 (専門職大学院)						
区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平 均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	60	45	50	51	45	84
合格者数	54	40	43	48	42	70
入学者数	50	39	39	46	41	65
充 足 率	0.62	0.48	0.48	0.57	0.51	0.53
③ 社会福祉学研究科 (博士前期課程)						
区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平 均
入学定員	15	15	15	15	15	15
志願者数	32	18	11	18	11	18
合格者数	18	16	10	16	10	14
入学者数	17	15	10	15	10	13
充 足 率	1.13	1.00	0.66	1.00	0.66	0.89
④ 社会福祉学研究科 (博士後期課程)						
区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平 均
入学定員	5	5	5	5	5	5
志願者数	13	9	8	13	12	11
合格者数	8	8	6	13	10	9
入学者数	7	8	6	13	10	9
充 足 率	1.40	1.60	1.20	2.60	2.00	1.76

【分析結果とその根拠理由】

学部の過去5年間の平均入学定員充足率からみると、大幅な定員超過や未充足の状況ではなく、適正であると判断する。その一方で、大学院博士後期課程と大学院博士前期課程及び専門職大学院の過去5年間の平均入学定員充足率では、定員超過や未充足の状況になっていることから、より一層の学生募集活動や入試改善が必要である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

○本学の目的に沿って、学部及び両大学院ともアドミッション・ポリシーを明確に定めている。

○学部は入試委員会を、両大学院は入試管理委員会を設置し、入試方法や試験科目等の検討を行うと共に、各教育組織に入学選抜の改善に役立てている。

- 学部ではアドミッション・ポリシーを実現するために多様な入試方法を採用しており、個性的な学生を入学させている。とりわけ、聴覚障がい者入試枠で手話入試を導入するなど、障がいのある受験生への配慮を行っている。
- 入学者数は、学部では大幅な定員超過や未充足の状況ではなく、平均入学定員超過率を超えることがないよう、適正に管理されている。

【改善を要する点】

- 学部推薦入試による志願者数の増を図るための改善策を検討していく必要がある。
- 福祉マネジメント研究科（専門職大学院）の入学定員充足率は0.53であり、一層の定員充足に向けた改善が必要である。福祉マネジメント研究科については、文部科学省へ入学定員80名を60名へ変更する申請手続を準備中である。
- 大学院社会福祉学研究科博士後期課程の定員増の見直しが検討されており、その実現に向けた検討が課題である。